



「学びの場としての公共交通」

筑波大学大学院システム情報工学研究科講師 谷口 綾子

近頃、バスや電車の中で床に座り込む高校生や、臆面無く化粧をする女性が話題となっています。本人達の言い分は、「誰にも迷惑をかけていないから問題ない」ということのようにです。確かに、誰かに危害を加えているわけでも、騒音を出しているわけでもありません。しかし、このような行為に違和感を覚えるのは筆者だけではないでしょう。実際、新聞の投書欄に苦言が呈され、バス・鉄道事業者への苦情でも上位に挙がっているようです。このことは、自分の家などのプライベートな空間と、皆で使う公共空間の区別が徐々に曖昧になってきていることに起因しているように思われます。

このような傾向を促進したものの一つとして「マイカー移動の増加」がありそうです。マイカーの車内はプライベートな空間ですので、大声で歌をうたっても、お化粧をしても、騒いでも、だらしなく座っても、特に大きな問題とはなりません。一方、バスや電車などの公共交通では、他の乗客に不快な思いをさせぬよう一定の配慮が不可欠です。もちろん子どもも例外ではありません。

人間は社会的動物であり、一人では生きていけません。ヒトは、公共空間において「世間(社会)」に触れ、そこでの振る舞いを学ぶことで社会的動物になるのです。幼少時からマイカーで移動し、移動中もプライベートな振る舞いに慣れた子ども達が大人になったとき、「公共空間」でも同様に振る舞ってしまうのかもしれませんが。プライベートな空間と公共空間のちがいを知り、「世間」を知るための学びの場の一つが、電車やバスなど、公共交通機関の車内なのではないでしょうか。

モビリティ・マネジメント教育は、バス・電車という公共空間での振る舞いを学ぶことができる貴重な場でもあるのです。